



Title	ブラジルの聖人札における命令文
Author(s)	彌永, 史郎
Citation	Anais : Colóquio de Estudos Luso-Brasileiros. 2024, 50, p. 1-17
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/98453
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

ブラジルの聖人札における命令文¹

彌永史郎

I. はじめに

国民の65%がカトリック教徒といわれるブラジルにおいて、人々のあいだで様々な聖人が信仰を集めていることはよく知られた事実である²。ブラジル国体の守護聖女、アパレシーダの聖母、ブラジル陸軍の守護聖女、無原罪懐胎の聖母、リオデジャネイロ市の守護聖人たる聖セバスティアヌス、サンパウロ市の守護聖人、聖パウロ、リスボン市の聖ウィンケンティウスなど、カトリックを奉ずる国家の常であるが、様々な機関や自治体が守護聖人を持っている³。個人が自分の誕生日にちなんだ聖人・聖女を守護とする場合もあろう。

さらに民間では、たとえば女性のあいだに深く浸透した庶民的な聖アントニウス信仰は、ヨーロッパから伝播してから民衆的で素朴な崇拜習俗が加わり、独自の形態を見せている⁴。こうして、数ある聖人・聖女がそれぞれに特有の分野で大衆の日常的な祈りに応えるとい

1. 本稿は2020年3月29日、日本ポルトガル・ブラジル学会関西部会での発表に基づく。なお「聖人札」の名称については本論の注6を参照。
2. カトリック約65%、プロテスタント約22%、無宗教8%（ブラジル地理統計院、2010年）。出典：外務省ブラジル基礎データ（<https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/brazil/data.html>）2022/05/22 取得。
3. アパレシーダの聖母 (Nossa Senhora de Aparecida), 無原罪懐胎の聖母 (Nossa Senhora da Imaculada Conceição), 聖セバスティアヌス(São Sebastião), 聖パウロ(São Paulo), 聖ウィンケンティウス(São Vicente). 聖ウィンケンティウスについては彌永(1991) 参照。
4. 聖アントニウス (Santo António | Antônio) はポルトガル語圏ではもともと人気のある聖人のひとりとして、とりわけ縁結びの聖者 (Santo Casamenteiro) として若い女性を中心に信仰を集めている。周知の通りポルトガル語圏では出生地にちなんで Santo António de Lisboa として知られるが、生涯を終えた地にちなんで S. António de Padova としても知られる。ブラジルでは同聖人にかけた願いをより効果的に成就させるためには、幼子イエスを抱える聖アントニウスの像から、幼子を取り去っておく(願いが成就したら幼子をもとに戻す)、また像そのものを逆さにして井戸に沈めたり冷蔵庫に入れておく、というような俗習が広く知られている。

うのが、聖人信仰の基本的な姿であろう⁵。このような聖人信仰を支えているのは、さまざまな聖人を祀った教会はもとより、あちこちの教会で配布される聖人札である⁶。

II. 聖人札



図1 聖人札 (Santinho) の見本

聖女についての解説、すなわち、そのご利益、祈りの方法などを示したものである。

大衆向けの、わかりやすい構成で、それでいて聖人への畏敬の念を保った擬古文的文語表現でまとめられたものである⁷。聖人・聖女にはそれぞれ専門分野ともいえる範囲での守護としての役割がある。よく知られたところでは、母性の象徴聖母マリアをはじめ交通安全の聖クリスト

本稿においてとりあげる「聖人札」は、ポルトガル語でいう「santinho」あるいは「pagela」の訳語として用いる。

本論で用いる翻訳としての「聖人札」は図1にあるように、概ね名刺大の紙片で表面に色刷りの聖人・聖女の姿が描かれており、裏には聖人・

5. またブラジルでは特にアフリカ系の宗教カンドンブレー (candomblé) の神々との習合 (sincretismo) がみられ、芸術面でもしばしば取り上げられるテーマである。

6. 日本におけるカトリック教では「御絵 (ごえ)」の名称が一般的である。

7. 本論考で用いたブラジルの聖人札30枚は、Gisele Wolkoff 先生が2019年に現地で収集したものを提供いただいた。また、一部の聖人札のテキスト解釈にはマルコ・カスキーリョ神父にご教示をいただいた。記して深謝したい。

フォロス、疫病封じの聖ロクス、縁結びの聖アントニウス、嵐から身を守る守護聖女、聖女バルバラ、経済苦など日常的苦痛から人を至急救済するという聖エクスペディトゥスなどは、人々の日常生活に深く浸透しているようである⁸。そして聖人札には、こうした現世的な要求に応えるべく具体的な祈りの文句と仕草を含めた願掛けの方法が指南されており、時には「願ほどき」の折には聖人札の印刷の注文をぜひと促す、販売元の宣伝を抜け目なく含む構成のものも見られる⁹。

また聖人札においては、聖人・聖女に対して、それぞれの専門に応じて直接奇跡を行ってくれるように願う方法もあるが、他方、聖人と神との上下関係を重んじて聖人を神への仲介者として位置付け、神へ願いを届けるように依頼するという形をとるものもある¹⁰。いずれにせよ、こうした超自然的存在に対する祈願を目的とする特殊な文語であるから、一般的に是とされている文語とは質を異にする面がある。必ず叙述的な部分と祈願の部分が含まれているだけに、ある使用域に特有の大衆的な文語の姿をよく反映していると言ってよからう。

III. 聖人札のテキストの文法的特徴

先に図示した通り、聖人札の表面は基本的に色刷りの聖人・聖女の姿とそれにまつわる寓話的な事物を視覚的に表示すべく、関連する聖人伝説にちなんだ事物、動物、情景などが描かれる。その裏面には、通常は当該聖人の祝日を示し、導入部分では、実際にはどのような場合にその聖人・聖女を頼りとして願をかけるべきか、換言すればその

8. 聖母マリーアは「Nossa Senhora」のあとにさまざまな限定（«da Imaculada Conceição», «de Lourdes», «da Fátima», etc.）が加えられる。ポルトガル語では以下の表記を用いる。聖クリストフォロス（São Cristóvão）、聖ロクス（São Roque）、聖アントニウス（Santo António | Antônio）、聖エクスペディトゥス（Santo Expedito）。

9. 例えば、São Jorge の聖人札の裏面最後には、発行元の電話番号やURLとともに以下のような消費を促す文句が加えられており、聖人札がどのように商業化されているかよくわかる：«Imprima e distribua um milheiro desta oração e ajude para que outros necessitados aprendam a ter fé.» 「一束1000枚のこの聖人札を印刷、配布して、他の困っている方々が信仰を得られるようご援助下さい。」

10. Meneses (2011:55).

専門領域と言ってよいところが解説され、引き続き祈祷の文句が連ねられ、その途中に祈りをあげる本人の欲することを挟み込む場所も通常指示されている。例として、ルルドの聖母の聖人札を引用してみよう。なお文語的規範から外れる場合は「sic」と示しそのまま転写する。

例1.

(1) Se você anda perturbado, atormentado, sua vida anda cheia de problemas que sozinho não consegue resolver, e está precisando de equilíbrio e tranquilidade para poder resolvê-los, peça ajuda. O maior dos milagres de Nossa Senhora de Lourdes é dar a paz de espírito que as pessoas precisam para poder trabalhar, estudar e se dedicar à Família.

Oração: Ó Virgem puríssima, Nossa Senhora de Lourdes, que vos dignastes a aparecer a Bernadette, no lugar solitário de uma gruta, para nos lembrar que é no sossego e recolhimento que Deus nos fala e nós falamos com ele, ajudai-nos encontrar (sic) o sossego e a paz da alma e conservar-nos sempre unidos a Deus. Nosso (sic) Senhora de Gruta, dai-me a graça que vos peço tanto preciso (pedir a graça que você deseja). Nossa Senhora de Lourdes, rogai por nós. Amém. Rezar 1 Pai Nosso, 1 Ave Maria e Fazer o Sinal da Cruz¹¹.

11. 以下参考のために日本語訳を示す。

【解説】あなたが困惑し悩みを抱え、人生に問題が山積しており一人では解決できないようなことがあれば、そしてまた心の平静と平穏を取り戻して問題を解決したいならば、助けを求めなさい。ルルドの聖母の奇跡のうち最大のものは、人々が必要とする心の平和を与え、労働に勉強に、そして家族に献身的に尽くせるようにしてくださることです。

【祈り】汚れなき処女、ルルドの聖母よ、人里離れた洞窟で、ベルナデットのもとに姿をお現しになり、心安らかな瞑想によってこそ神は我々にお話しくださり、また私たちも神と語ることができると思ひ出させて下さいました。どうか私たちが落ち着きと心の平和を見出せるようにお助けください。そして私たちがいつも神と共にいられるようにお助けください。洞窟の聖母さま、どうか私に恩寵を下されますように、私は何としても（ここに自分の願いを入れる）していただきたいので、私たちに代わって神様をお願いしてください。主の祈りを1回、アヴェマリアの祈りを1回、さらに十字を切ること。

この文章において、前半の解説部分では、この聖人札の製作者という立場から読者に対する助言と解説が極めて普通の文語で書かれているが、特に注目したいのは、後半の「Oração」以下の祈祷の部分である。そこには対称としての「ルルドの聖母」に対して、まず「vos dignastes」という2人称複数形が用いられている。祈祷文は一種の擬古文的な調子の祈りにふさわしいことばで統一されており、動詞は単数の対象である聖人・聖女に対していわゆる敬称の2人称複数形を用い、直説法・過去形 «dignastes», 命令法 «ajudai-nos», «dai-me», «rogai» が用いられている。

つまり聖人札にはその目的の性質上、必然的に平叙文に加えて「聖人・聖女様、お願いですから～してください（～しないでください）」という多くの祈願が内容の骨子として含まれる。

IV. 聖人札における平叙文

すでに述べた通り、聖人札では通常は聖人・聖女を尊称の «vós» で扱う。したがって主語が表示、非表示にかかわらず動詞は2人称複数形が用いられることになる。

- (1) Ó São Jorge, meu Santo Guerreiro, invencível na Fé em Deus, que **trazeis** em Vosso Rosto a esperança e confiança, (...) ¹²

しかしながら、以下の(2), (3) におけるように、動詞の形式が、非表示の主語 «vós» ではなく2人称単数形の «tu» に一致するという揺れの例も散見される。

- (2) Do alto desse trono que **reinas** sobre todos os anjos e santos, (...) ¹³
(3) Vós, que **fizeste** o paralítico andar, o morto voltar a viver, (...) ¹⁴

12. «São Jorge (1)」の聖人札より引用。

13. N. Sra. da Glória の聖人札より引用。ここでは直説法・現在・2人称・単数形が用いられているが、平叙文の文脈では2人称複数形の «reinais» とあるべきところである。後続する祈願文では «volvei» と命令法・2人称複数形が用いられている。

14. «Conversa com Jesus」の聖人札より引用。

今回調査した30枚の聖人札に関して、平叙文で用いられる動詞は全部で249件あった。文脈に従って、尊称の2人称複数形の使用を中心として、規範からの揺れの有無をみた。その結果は以下の表1のようにまとめることができる。

表1：祈願札の平叙文：動詞活用形式の規範と揺れ

規則動詞									不規則動詞		
第1活用動詞			第2活用動詞			第3活用動詞					
±規範	件数	%	±規範	件数	%	±規範	件数	%	±規範	件数	%
+	112	99	+	23	100	+	8	100	+	147	98
−	1	1	−	0	0	−	0	0	−	3	2
	113			23			8			150	

(±規範の列では、規範通りの場合+記号、規範から外れる場合-記号で示し、それぞれの件数ならびに%を示す。)

表にあるとおり、揺れは第1活用動詞において1件、不規則動詞に関して3件と、ごくわずかである。尊称の2人称複数形に関して事例から察せられることは、これらの聖人札の書き手が2人称複数形の活用形式に親しんでいなかったということである。すなわち、基本的には常用口語からは廃れた形式であるため、通常の話し手にとっては特殊な使用域の形式として学ぶ必要がある形式だということが明らかと言えよう¹⁵。いっぽう不規則動詞に関しては、以下の表2における3例が聖人札の平叙文においてみられたものである。いずれも誤植と思われる程度の微妙な規範からの逸脱と、明らかな知識の不足とを表す例といえる。表では規範から外れた事例を【-規範】の列に、規範に従う形式を【+規範】の列に示す。

15. ブラジルの言語使用において、動詞の一致 (concordância verbal) を使いこなすか否かは学識のある一部のエリート層と学習機会のない非学識層の大衆を水平に分断するひとつの基準として機能するほどであるという。詳しくは、Lucchesi (2015:167)。

表2：不規則動詞の揺れ *

不定詞	実例【－規範】	【＋規範】
ser	és	sois
fazer	fizeste	fizestes
ter	tem	têm

*規範的には「sois」であるべきところ「és」と表記されていることを示す。

V. 聖人札における祈願文

すでに述べたとおり、聖人・聖女に対する祈願の指南が聖人札の核をなす内容で、なかでも直接的な祈願が重要である。もっとも重要な内容が表わされる祈願文においては、主語が「vós」であれば、動詞は肯定文では命令法・2人称複数形、否定文では接続法・2人称複数形が用いられることになる¹⁶。以下の (4) ～ (10) に典型的な例を引用してみよう¹⁷。

- (4) **Rogai** por mim que estou tão desolado.
- (5) Não me **deixeis** sozinho nas estradas.
- (6) (...) ó incomparável Mãe, **guardai-me e defendei-me** como coisa e propriedade vossa.
- (7) **Assisti-me** nesta grande necessidade, (...)
- (8) Vós que fostes o pai das viúvas **sede** meu pai.
- (9) Senhor, **Fazei-me** instrumento de vossa paz!
- (10) (...) **volvei** para nós os vossos olhos misericordiosos;

16. 命令法の文法的主語を2人称に限らず3人称の語も含めた「命令法」を表示する方法がとられることもある。Cf. Infopédia の動詞活用表。否定命令文に用いられる形式もすべて含めて表示していくことで、伝統的な規範文法の説明より一層合理的なものになろう。

17. 引用元の聖人札は以下のとおり。(4) São Judas Tadeu-1, (5) São Cristóvão, (6) Rainha da Paz, (7) São Judas Tadeu-2, (8) Santo Onofre, (9) São Francisco de Assis. (10) N. Sra. da Glória.

祈願文は、今回の調査においては160件現れた。2人称複数形という普段接することの稀な動詞の形式で動詞の一致が求められるので、それなりの揺れが観察される。詳しく見ていくと、第1～3活用動詞、不規則活用動詞それぞれについて、ある種の傾向が見られるので、典型的例を以下一例ずつ参照してみたい。

第1活用動詞の例：

- (11) **Ajuda-me** a superar estas Horas Difíceis, (...) ¹⁸

第2活用動詞の例：

- (12) **Atenda** ao meu pedido: (...) ¹⁹

第3活用動詞の例：

- (13) Ó São Jorge, meu Santo Guerreiro, invencível na fé em Deus, que trazeis em vosso rosto a esperança e confiança, **abre** meus caminhos²⁰.

不規則動詞の例：

- (14) **Fazeis**, Divino Jesus, que antes de terminar essa conversa que terei Convosco durante nove dias, eu alcance esta graça que peço com fé (...) ²¹

これらの実例から肯定の祈願文において、主語と動詞の一致の原則に従う場合、従わない場合を含め、どのような動詞の形式が用いられているかをまとめると以下の表3のようになる。

18. Santo Expedito の聖人札より引用. «Ajudai-me» とあるべき.

19. Nossa Senhora do Bom Parto の聖人札より引用. «Atendei-me» とあるべき.

20. S. Jorge の聖人札より引用. «abre» は«abri»とあるべき.

21. Conversa com Jesus の聖人札より引用. «Fazeis» は平叙文と読むことも可能だが、文脈から祈願文として、«Fazei»とあるべきと考えられる.

表3：対称詞 «vós» に対する祈願文の動詞活用形式

時称形式	例	主語と動詞の一致
命令法2人称複数形	rogai, dai-me	+ 規範
命令法2人称単数形	socorre-me, ajuda-me	- 規範
接続法2人称複数形	não me deixeis	+ 規範
接続法3人称単数形	interceda, proteja-me, atenda, devolva	- 規範

全体をこのような観点から、すなわち、動詞の一致の原則が規範通り保たれているか否かを調査し表1と同様に分類してみると、以下の表4が得られる。

表4：祈願札の祈願文：動詞の活用形式の規範と揺れ

規則動詞									不規則動詞		
第1活用動詞			第2活用動詞			第3活用動詞					
±規範	件数	%	±規範	件数	%	±規範	件数	%	±規範	件数	%
+	69	97	+	27	71	+	8	67	+	37	97
−	2	3	−	11	29	−	4	33	−	1	3
	71			38			12			38	

(±の記号については表1と同様)

上記の表4から明らかなように、第1活用動詞については、全体の3%相当のごくわずかな揺れが見られ、具体的には、「Ajuda-me...」が同一の聖人札に2例見つかるのみである²²。

いっぽう第2活用動詞については、揺れの例が比較的多く見られ、「socorre-me», «atenda», «interceda», «proteja-me」という形が繰り返し現れる。

さらに第3活用動詞では «abra», «assiste-me», «imprime» などであり、特に «abra» は複数の聖人札において見られる。

22. S. Expedito. ex: «**Ajuda-me** a superar estas Horas Difíceis, (...)».

不規則動詞については、37の祈願文のうち揺れは «fazeis» のみで、その他の聖人札では «dai-me», «fazei» など規範通りの形式が用いられており揺れは見られない²³。

VI. 祈願文における活用形式の揺れ

一般的な規範文法に従えば、表3で見られる主語と動詞が一致していない命令法・2人称単数形、接続法・3人称単数形に分かれているものを、すべて命令法・2人称複数形に統一せねばならない。しかしながら、常用口語に起源をもつと思われるこの種の「乱れ」が30枚の聖人札をみると様々な形で分布しているのである²⁴。

こうした乱れがなぜ生ずるかを考えると、まず第一に、2人称複数形という形式が文語においてもまれであって、とりわけ常用口語の使用域で触れる機会がないことがまず挙げられよう。さらに重要なことは、とりわけ、第2活用動詞と第3活用動詞の活用語尾が、それぞれ «-ei», «-i» となり、以下の表5に見られるように、第2活用動詞の命令法・2人称複数形は第1活用動詞の直説法・過去・1人称単数形の活用語尾と部分的に重なり、また第3活用動詞の命令法・2人称複数形は第3活用動詞の直説法・過去・1人称単数形と完全に重複する点である。

表5：命令法の語末形式

		命令法・2 pl.			命令法・2 pl.
第2活用動詞	atender	atendei	第3活用動詞	abrir	abri
	proteger	protegei		assistir	assisti
	socorrer	socorrei		imprimir	imprimi

23. Conversa com Jesus. ex: «Fazeis (...) que (...) eu alcance esta graça (...)»

24. 常用口語については彌永 (2022:64).

仮に規範文法の知識が十分でないとすると、「atendei」という形式の末尾の「-ei」から、実際には存在しない不定詞の「*atendar」の直説法・過去・1人称単数形が想起されれば、迷いが生じるに違いない。さらに「cê», «ocê» で待遇する相手に用いる «atende», «protege» では聖人に対してはふさわしくないと直感され、より格式張った場面で «você», «o senhor» などに対して用いる接続法の «atenda», «proteja» を用いるほうが望ましいという判断が行われる、というのがこうした逸脱の理由といえる。修正の方向が外れた結果の一種の過剰修正といえよう。

さらに第3活用動詞の場合は、命令法・2人称複数形が直説法・過去・1人称単数形とすべて重複している。規範文法に十分通じていない話者であれば、常用口語²⁵ の使用域で馴染みの深いこれらの直説法・過去・1人称単数形 «(eu) abri», «(eu) assiste» などと重複している形式を、「vós」で敬って扱うべき聖人・聖女という対象詞に、祈願という文脈で使用するに当然のことながら躊躇が生ずる。そもそも常用口語で親しい相手は通常 «cê», «ocê» で待遇し、これらの話し相手に対する遠慮のない依頼、命令などの場合、命令法・2人称単数形と同形の «abre», «assiste» を用いる。さらには音声的に比較すれば、これらの活用形式は abre /'abri/ に対して abri /a'bri/, assiste /a'sistʃi/ に対して assiste /asis'tʃi/ が存在するので、強勢の位置のみによって対立する最小対ができる。したがって、こうした常用口語の使用域とは異なる聖人・聖女という「尊い」相手を言語的にいかに扱うべきかという問題に直面した話者は、以下のような方法で迷いを解決する。すなわち改まった場面において話し相手を «você» や «o senhor, a senhora» で待遇するときに用いる、丁寧な依頼の方法を選び、接続法の活用形式 «abra», «assista» などを用いることにするのである。こうした手段によって話者はふたつの面で問題を解消できる。つまり «(eu) abri», «(eu)

25. 本稿で用いる常用口語、標準口語は Silva (2004), p. 43-63. による「常用規範 (norma vernácula)」と「標準規範 (norma culta)」の区別に依る。

assisti» という主語の間違いという不安を解消でき、さらには親しい友達相手用の «abre», «assiste» とは異なる改まった場面用の接続法の活用形式 «abra», «assista» を使いこなすことにより、フォーマルで正しい表現を用いて、間違いのない待遇表現ができたという心理的な安心感を得ることができよう。このように主語と動詞の一致の欠如は典型的な過剰修正 (hypercorrection) の例として理解することができる。

VII. 結論

以上、ブラジルで流布する聖人札をつぶさに観察し、通常の誤植の範囲を大きくはずれ、相当に高い頻度で見られる規範からの逸脱の実情を記述した。以下のグラフで示すように結果として、常用口語の使用者による過剰修正が原因と思われる規範文法からのずれが、特に第2、第3活用動詞で相当な頻度で認められた。

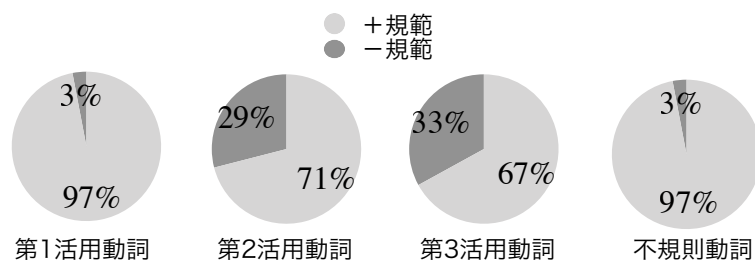


図2：祈願文の動詞活用形式：【+規範】vs【-規範】

しかしながら、この揺れが一つの傾向として規範的体系全体を上書きしていくほどのうねりをもつ力であるかという点、多くの文法家と同様、筆者も懐疑的にならざるを得ない。規範的体系は学校教育の場で繰り返し正規の知識として与えられ続ける。高等教育を受けた国民の一部にとっては本稿でみた文法的揺れは単純な知識不足、間違いと判断される。動詞の一致を使いこなすことがエリートの条件であれば、

その反対にこうした文法規則から逸脱した言語使用自体が不名誉なレッテルとなっていることも事実である。国民の非識字率がいまだに推定で6.6%(2019)と言われるブラジルにおいて、国民の教育に対する熱意は今後も確実に高まっていくであろう。また、高等教育を受けたエリート層が国民の17.4%(2019)とすると、大学教育も今後ますます発展し、結果的には幅広い階層の人々が高等教育をつうじて規範を使いこなすことを求めようとするのはきわめて当然の成り行きである²⁶。

加えてカトリック教会における聖職者たちの規範に対する意識は一般に比べて格段に高いことは言うまでもない。今回扱った聖人札に見られる逸脱は聖職者たちの目に触れれば必ずや修正されるべき性質のものと思えるであろう。

一般的には2人称の代名詞は単数形・複数形ともに現代のブラジルのポルトガル語では廃れた、と言われる²⁷。しかしながら、単数形は規範的な動詞の一致を保って用いられている地方と、動詞の活用形式は3人称単数形に置き換わっている場合とがあると言われる。このような常用口語の使用域において様々な言語的変種が共存する中で、いわゆる標準口語、すなわち、知的エリート層の使いこなすフォーマルなポルトガル語の口語において動詞活用の簡略化が受け入れられ大きく変化して行くということは容易ではなかろう。「主語と動詞の一致」という文法的規則を使いこなせるか否かは高等教育を受けたエリートの証であり、ブラジル社会を水平に分断する言語的特徴であると言われる²⁸。したがって常用口語における動詞活用形式の簡略化を口語であれ文語であれ、標準的な使用域のポルトガル語に取り入れるということは、一種の既得権の放棄にも繋がり、簡単には受け入れがた

26. 統計資料はブラジル地理統計院 IBGE - Instituto Brasileiro de Geografia e EstatísticaのHPより取得： <https://educa.ibge.gov.br/jovens/conheca-o-brasil/populacao/18317-educacao.html> (2 de agosto de 2022).

27. ブラジル口語の命令文については、彌永・ロドリゲス (2023), p. 369-374 参照.

28. «A concordância verbal é um aspecto linguístico que divide a sociedade brasileira, horizontalmente. Enquanto a elite letrada emprega quase sempre a regra de concordância, essa regra é muito pouco encontrada na fala dos segmentos populares sem acesso à cidadania e à educação escolar.» in: Lucchesi (2015:167-8).

いものとなろう。加うるに正統派の宗教的な環境において、伝統的な標準ポルトガル語の文語規範がこの種の変化を是とするとも到底考えられない。教育が浸透するにつれ中等教育以降で親しむことになる時代劇、古文調の表現などにおいて、尊称の «vós» はひとつの重要な標識として学習され、その知識は継承されていくに違いない。

また、外国語としてのポルトガル語を教育の現場において、文法体系全体の均衡を踏まえれば、単数形、複数形ともに2人称の代名詞を「使用頻度が低いあるいはすでに廃れた形式」として扱い、対応する動詞活用形式を不要なものとして除外しておくことは正しい知見に基づいておらず、かえって非合理的な方法であることが明らかである。なぜなら外国語としての学習者とはいえ、結局はけっして消失することがない動詞形式について知らずに済ませることはできず、いずれ学び直す必要に迫られるからである。

付録

聖エクスペディトゥスの聖人札²⁹

Oração a Santo Expedito

Festa 19 de Abril. Comemora-se todo dia 19.

Se você está com algum Problema de difícil solução e precisa de Ajuda Urgente, peça esta ajuda a Santo Expedito que é o Santo dos Negócios que precisam de Pronta Solução e cuja invocação nunca é tardia.

Oração: — Meu Santo Expedito das Causas Justas e Urgentes, **Socore-me** nesta Hora de Aflição e desespero, **interceda** por

29. 聖エクスペディトゥス (ポルトガル語では Santo Expedito). ブラジルではよく知られた聖人であるが、その生涯についてはよく知られていないといわれる。以下、*Notícia do Vaticano* より引用：«Não se sabe muito sobre este santo, martirizado em Melitene, Armênia, no século III, junto com Elpídio e Hermógenes. Ele é representado com roupas militares, enquanto esmaga um corvo, que grita «amanhã» ou com uma cruz ou relógio, que indica «hoje». Por isso, é invocado para causas urgentes.» (<https://www.vaticannews.va/pt/santo-do-dia/04/19.html>, obtido a 3 de agosto de 2022)

mimjunto ao Nosso Senhor JESUS CRISTO. Vós que **sois** um Santo Guerreiro. Vós que **sois** o Santo dos Afritos, Vós **que** sois o Santo dos Desesperados, Vós que **sois** o Santo das Causas Urgentes, **Proteja-me, Ajuda-me, Dai-me** Força, Coragem, e Serenidade. **Atenda** ao meu pedido: "Fazer o Pedido". **Ajuda-me** a superar estas Horas Difíceis, **proteja-me** de todos que possam me prejudicar, **Proteja** a Minha Família, **atenda** ao meu pedido com urgência. **Devolva-me** a Paz e a Tranquilidade. Serei grato pelo resto de minha vida e levarei **seu** nome a todos que tem fé. Muito Obrigado. **Rezar** 1 Pai Nosso; 1 Ave Maria e **fazer** o Sinal da Cruz³⁰.

【解説】

日常の差し迫った状況で急ぎ解決を望む場合、多くの人々が願掛けをする対象の聖人として知られている。エクスペディトゥスが掲げる十字架に「HODIE (hoje, neste momento)」と書かれ、聖者が足で踏みつけているからすが「CRAS (amanhã)」と啼いている様子には滑稽な面白さもある。大衆的な人気があるだけに、さまざまな版の聖人札が流布し

30. 以下参考のために日本語訳を示す。

【聖エクスペディトゥスへの祈祷】

祭日、4月19日。毎月19日に祝う。

もしもあなたが何か解決し難い問題を抱えていてすぐに助けを必要とするのなら、その助けは聖エクスペディトゥスにお願いなさってください。この聖人は即決を要する事業の守護聖人であり、その助けを求めるのに時期がすでに遅しということは決してありません。

【祈祷】正当で緊急な大義の救い主、我が聖エクスペディトゥス様、この苦しみと絶望の時、私をお救いください。そして私に代わって我が主イエスキリストに願いを届けてください。あなた様は聖なる兵士です。苦悩を救う聖人様、絶望から救ってくださる聖人様。あなた様は至急の用事の聖人様。私を守り、私を助け、力、勇気と安らぎを与えてください。私の願いを叶えてください。『ここに自分の願いを入れる』。この困難な時を乗り越えるべく私をお助けください。私を痛めつけようという全ての事柄から私をお守りください。私の家族をお守りください。私の願いを叶えてください。私に平安と静けさを取り戻してください。そうすれば一生私は感謝いたしますし、あなたの名前を信仰のある人々すべてに伝えましょう。どうかお願いいたします。『ここで主の祈りとアヴェマリアの祈りを唱えた上で十字を切ること。』

ているようだが、冒頭に示した版に比して、上記の版はとりわけ常用口語的な用法の混用が多い。

参考文献

彌永史郎 (1991) 「聖ウィンケンティウス伝説とからす — ポルトガルの場合 —」 京都外国語大学『研究論叢』第36号.

彌永史郎 (2015) 『ポルトガル語四週間』 大学書林.

彌永史郎 (2022) 『基礎ポルトガル語文法』 西東舎.

彌永史郎、ジョゼー・ロドリゲス共著. (2023) 『ポルトガル語のジェスチュア — ポルトガル・ブラジル』 西東舎.

MENEZES, Renata de Castros (2011). A imagem sagrada na era da reprodutividade técnica: sobre santinhos. in: *Horizontes Antropológicos*. Porto Alegre, ano 17, n. 36, p. 43-65, jul./dez.

ヤコブス・デ・ウォラギネ (1979) 『黄金伝説1〜4』 前田敬作ほか訳 京都 人文書院.

AMEAL, João (1957) *Santos Portugueses* Porto: Liv. Tavares Martins.

LUCCHESI, Dante (2015). A variação na concordância verbal no português popular da cidade de Salvador. in: *Estudos linguísticos e literários*. n°. 52, ago-dez, Salvador, p. 166-204.

SILVA, Matos e (2004). *Ensaio para uma sócio-história do português brasileiro*. São Paulo: Palábora Editora.

«Sumário»

Imperatividade no texto de «santinhos» brasileiros.

Shiro Iyanaga

Os santinhos, ou pagelas, distribuídos nas igrejas católicas brasileiras são pequenas estampas de papel do tamanho de um cartão de visita. Na sua superfície afigura-se a imagem colorida de um santo impresso e no verso há um texto onde se sugere aos crentes o modo de pedir graça aos respetivos santos. Do ponto de vista linguístico, o texto de santinhos constitui imprescindíveis exemplos da língua escrita diariamente praticada no Brasil, especialmente no que respeita ao seu aspeto vernáculo. Focalizando-se no uso do Imperativo, muito frequente em textos deste gênero, devido à sua função de solicitar a graça das entidades sagradas, analizámos estatisticamente a oscilação de acordo com os textos de 30 santinhos. Revelou-se que há uma considerável oscilação entre a norma e o uso popular, sendo que o autor acredita que a gramática prescritiva, embora parcialmente desarticulada, não se transformará facilmente, devido à tácita força conservadora e reparadora, conforme a qual a classe letrada se mantém em uma forte posição sócio-económica, apesar de alguns escassos desvios informais.